

■ 概況

5/11～5/17のNYMEX・WTIは47.83～49.07ドルで上昇気味に推移した。

5月18日は、米国の原油輸出増加の報道で弱含みで始まったものの、OPEC・非OPEC主要産油国の協調減産の延長について、15日のサウジ・ロシアに続きイラクやイランも前向き姿勢を示すなど、需給均衡への期待が高まり、続伸した。6月限の終値は前日比0.28ドル高の49.35ドルだった。

週末19日は、引き続き協調減産延長への期待が広がる中、対ユーロでドル安が進み原油先物の割安感から買い進まれ3日続伸、1カ月振りに50ドル台を回復した。ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が720基（前週比8基増、18週連続増加）との発表が上値を抑えた。6月限の終値は前日比0.98ドル高の50.33ドルだった。

週明け22日は、25日にウイーンで開催予定のOPEC総会で、協調減産の延長が正式に決定される見通しが一段と強くなったことから、4営業日続伸した。6月限の終値は前日比0.40ドル高の50.73ドルだった。

23日は、朝方、米国予算教書に戦略石油備蓄（SPR）を10年間で半減するとの方針があったことから売りが先行したが、協調減産延長に難色を示していたイラクが合意する旨の報道や夕刻と翌日の米国官民の在庫週報の取り崩し予想など、需給均衡への期待から続伸した。この日から取引の中心限月となった7月限の終値は前日比0.34ドル安の51.47ドルだった。

24日は、米国エネルギー情報局（EIA）週報の原油在庫減少の市場予想を上回る発表があり、買い進まれたが、翌日のOPEC総会を前にポジション調整の売りもあり、小幅反落し

た。7月限の終値は0.11ドル安の51.36ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（7月渡し）は、前週49.40～50.90ドルと堅調気味に推移した。5月18日は51.00ドル、19日は51.60ドル、22日は52.70ドル、23日は52.50ドル、17日は53.00ドルで推移した。

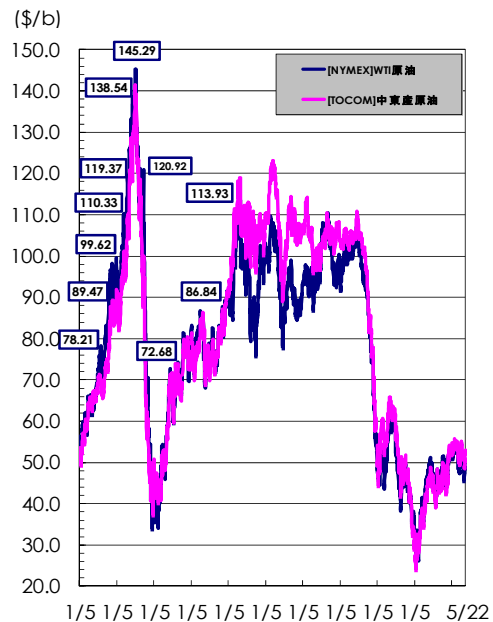
為替は、前週112.60～114.26円の範囲でやや円安に推移した。5月18日は111.06円、19日は111.40円、22日は111.54円、23日は111.16円、24日は111.82円で推移した。

財務省が22日発表した貿易統計速報（旬間ベース）によると、4月下旬の原油輸入平均CIF価格は、37,569円/klとなり、前旬を53円上回った。ドル建てでは54.31ドルで前旬比0.54ドル高。為替レートは1ドル/109.98円。また、同日発表した貿易統計速報（月間ベース）によると、4月の原油輸入平均CIF価格は、37,613円/klとなり、前月を2,553円下回った。ドル建てでは53.90ドルで前月比2.23ドル安。為替レートは1ドル/110.94円。

主要元売会社の5月第5週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから1.0円の値上げに分かれた。原油価格は値上がりし、為替レートの円高がやや相殺する形で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、5月22日時点の小売価格は、ガソリンが0.5円値下げりの132.2円、軽油は0.3円値下げりの111.2円、灯油は0.2円値下げりの77.1円だった。ガソリン、軽油、灯油いずれも5週連続の値下がりだった。この週（5月第4週）の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は据え置きから1.5円の値下げだった。

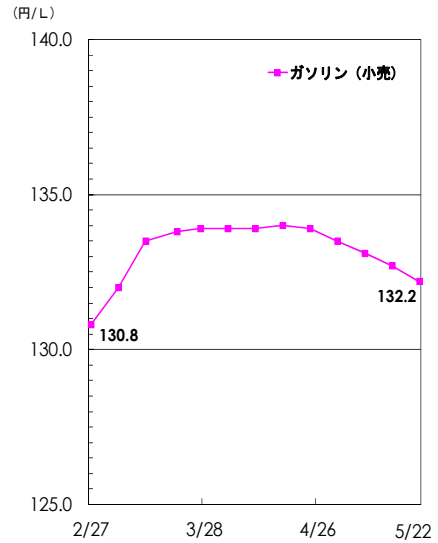
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/14 ~ 5/20	3,330 ▼ -61	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	85.0 ▼ -1.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/20	13,239 ▲ 347	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/ bbl)	5/22	53.06 ▲ 2.48	▲ 8.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	5/22	50.73 ▲ 1.88	▲ 2.7
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	4月下旬	54.31 ▲ 0.54	▲ 17.33
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	37,569 ▲ 53	▲ 11,689
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.98 ▲ 0.93	▲ 1.29
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/22	112.54 ▲ 1.89	▼ -1.72



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/14 ~ 5/20	1,006 ▲ 17	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	958 ▲ 56	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -23	▼ -	
	在庫	5/20	1,889 ▲ 47	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/16 ~ 5/22	47.5 ▼ -0.8	▲ 7.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/16 ~ 5/22	49.1 ▲ 0.3	▲ 4.8
		(TOCOM/中部)	5/22	49.9 ▲ 1.7	▲ 6.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/22	132.2 ▼ -0.5	▲ 13.0	

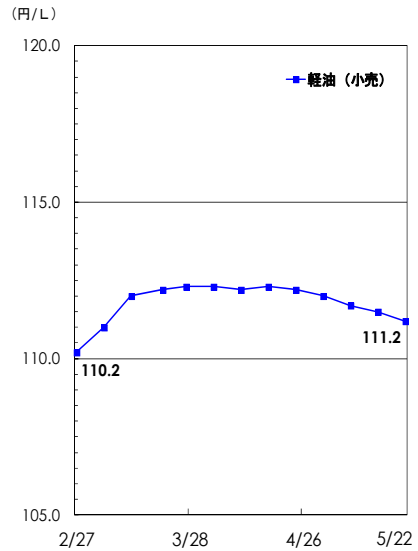
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

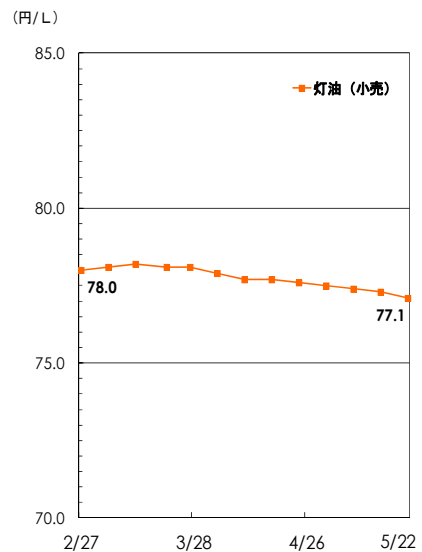
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/14 ~ 5/20	776 ▲ 89	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	660 ▲ 102	▼ -	
	輸出	"	167 ▼ -9	▲ -	
	在庫	5/20	1,625 ▼ -50	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/16 ~ 5/22	47.7 ▼ -1.1	▲ 11.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/16 ~ 5/22	48.0 ➡ 0.0	▲ 8.8
		(TOCOM/中部)	5/22	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/22	111.2 ▼ -0.3	▲ 10.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/14 ~ 5/20	204 ▲ 23	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	141 ▼ -4	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	5/20	1,247 ▲ 63	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/16 ~ 5/22	46.6 ▼ -0.9	▲ 10.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/16 ~ 5/22	46.6 ▲ 0.9	▲ 8.1
		(TOCOM/中部)	5/22	46.7 ▲ 0.1	▲ 9.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/22	77.1 ▼ -0.2	▲ 14.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月24日のNYMEX市場WTI原油は、朝方、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内原油在庫が440万バレル減少と市場予想(240万バレル減)を大幅に上回ったことから、買い進まれたが、ガソリン在庫は80万バレル減少と市場予想(120万バレル減)を下回ったこと、翌日にウイーンで予定されている石油輸出国機構(OPEC)総会を前に、ポジション調整のための売りがあったことから、小幅に反落した。7月限の終値は前日比0.11ドル高の51.36ドル、8月限の終値は前日比0.13ドル高の51.59ドルだった。

EIAによると、5月22日時点のガソリンの小売価格は前週比3.0セント値上がりの1ガロン2.399ドル(71.2円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.5セント値下がりの2.539ドル(75.4円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値上がり、ディーゼルは5週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、5月14日～5月20日に休止したトッパー能力は38.4万バレル/日で、前週に対して2.6万バレル/日の増加(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は333.0万klと、前週に比べ6.1万kl減少。前年に対しては2.7万klの減少。トッパー稼働率は85.0%と前週に対して1.6ポイントの減少、前年に対しては6.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてA重油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.7%増、ジェット/0.2%増、灯油/12.5%増、軽油/12.9%増、A重油/5.4%減、C重油/13.5%減。今週のC重油の輸入は2.2万kl(前週比13.2万kl減)。軽油の輸出は16.7万kl(前週比0.9万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、灯油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は95.8万kl(対前週6.2%増)と2週振りに前週比、前年比で増加となり、2週連続で100万klを下回った。

ジェット10.7万kl(対前週10.7%減)、灯油14.1万kl(対前週3.0%減)、軽油66.0万kl(対前週18.2%増)、

A重油20.6万kl(対前週10.1%減)、C重油27.8万kl(対前週13.8%増)。

(単位:千KL)

	今週 (5/14 ~ 5/20)	前週 (5/7 ~ 5/13)	前週比	
ガソリン	958	902	▲ 56	(6%)
ジェット燃料	107	120	▼ -13	(-11%)
灯油	141	145	▼ -4	(-3%)
軽油	660	558	▲ 102	(18%)
A重油	206	229	▼ -23	(-10%)
C重油	278	244	▲ 34	(14%)
合計	2,350	2,198	▲ 152	(7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月20日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは188.9万kl、前週差4.7万kl増。前年に対しては6.4万kl多い。

灯油は124.7万kl、前週差6.3万kl増。前年に対しては25.4万kl少ない。

軽油は162.5万kl、前週差5.0万kl減。前年に対しては9.1万kl少ない。

A重油は81.4万kl、前週差0.9万kl減。前年に対しては0.5万kl多い。

C重油は204.4万kl、前週差3.6万kl減。前年に対しては1.9万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (5/20)	前週 (5/13)	前週比	
ガソリン	1,889	1,842	▲ 47	(3%)
ジェット燃料	1,115	1,092	▲ 23	(2%)
灯油	1,247	1,184	▲ 63	(5%)
軽油	1,625	1,675	▼ -50	(-3%)
A重油	814	823	▼ -9	(-1%)
C重油	2,044	2,080	▼ -36	(-2%)
合計	8,734	8,696	▲ 38	(0.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月16日から22日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高でこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン101円台で軟化、軽油47～48円台で軟化、灯油46円台で軟化して推移した。海上スポット価格は、ガソリン100～104円台で堅調、軽油47円台で軟化、灯油45～46円台でほぼ横ばいで推移した。先物価格は、ガソリン102～104円台で上昇、軽油48円台で横ばい、灯油46～47円台で上昇した。元売の卸価格は、ガソリンは据え置きから1.5円の値下げに分かれ、灯油・軽油は据え置きと1.0円の値上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値上がり、製品スポット市況は、油種、市場によってバラツキが見られたが、全般的に軟調だった。週間のガソリン販売量は、2週連続で100万klを下まわった。

5月第5週(5月25日～31日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月16日～22日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.8円の値下がり、軽油は1.1円の値下がり、灯油は0.9円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.7円の値上がり、軽油は1.5円の値下がり、灯油は0.1円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.3円の値上がり、軽油が横ばい、灯油は0.9円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替は円高で、原油コストは値上がりとなった。

5月第5週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.0円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (5/16 ~ 5/22)	前週 (5/9 ~ 5/15)	前週比
スポット価格	レギュラー	47.5	48.3	▼ -0.8
	灯油	46.6	47.5	▼ -0.9
	軽油	47.7	48.8	▼ -1.1
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値][平均]		今週 (5/16 ~ 5/22)	前週 (5/9 ~ 5/15)	前週比
先物価格	レギュラー	49.1	48.8	▲ 0.3
	灯油	46.6	45.7	▲ 0.9
	軽油	48.0	48.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/16～5/22実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.8	▲ 0.3	▼ -0.3	
灯油	▼ -0.9	▲ 0.9	➡ 0.0	
軽油	▼ -1.1	➡ 0.0	▼ -0.5	
A重油	▼ -0.9			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値下がりの132.2円、軽油も前週比0.3円値下がりの111.2円、灯油は前週比0.2円値下がりの77.1円だった。ガソリン、軽油、灯油ともに5週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは5府県、横ばいは4道県、値下がり38都府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、岡山県の126.6円(同0.4円安)、次が埼玉県126.8円(前週比0.6円安)だった。最高値は鹿児島県の139.9円(同0.5円安)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.2円高の和歌山県(133.8円)と大阪府(131.7円)、最も値下がりした県は同1.5円安の兵庫県

(131.0円)、横ばいが高知県・秋田県・北海道・愛知県の4道県だった。

原油コストはやや値上がりしたが、元売りの卸価格は据え置きから1.5円の値下げで、5週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれを相殺する形で、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、据え置きから1.0円の値上げだった。次週(5月29日)のガソリンと灯油の小売価格は、横ばいが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
	今週 (5/22)	前週 (5/15)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	132.2	132.7	▼ -0.5	08/8/4 185.1
	灯油	77.1	77.3	▼ -0.2	08/8/11 132.1
	軽油	111.2	111.5	▼ -0.3	08/8/4 167.4

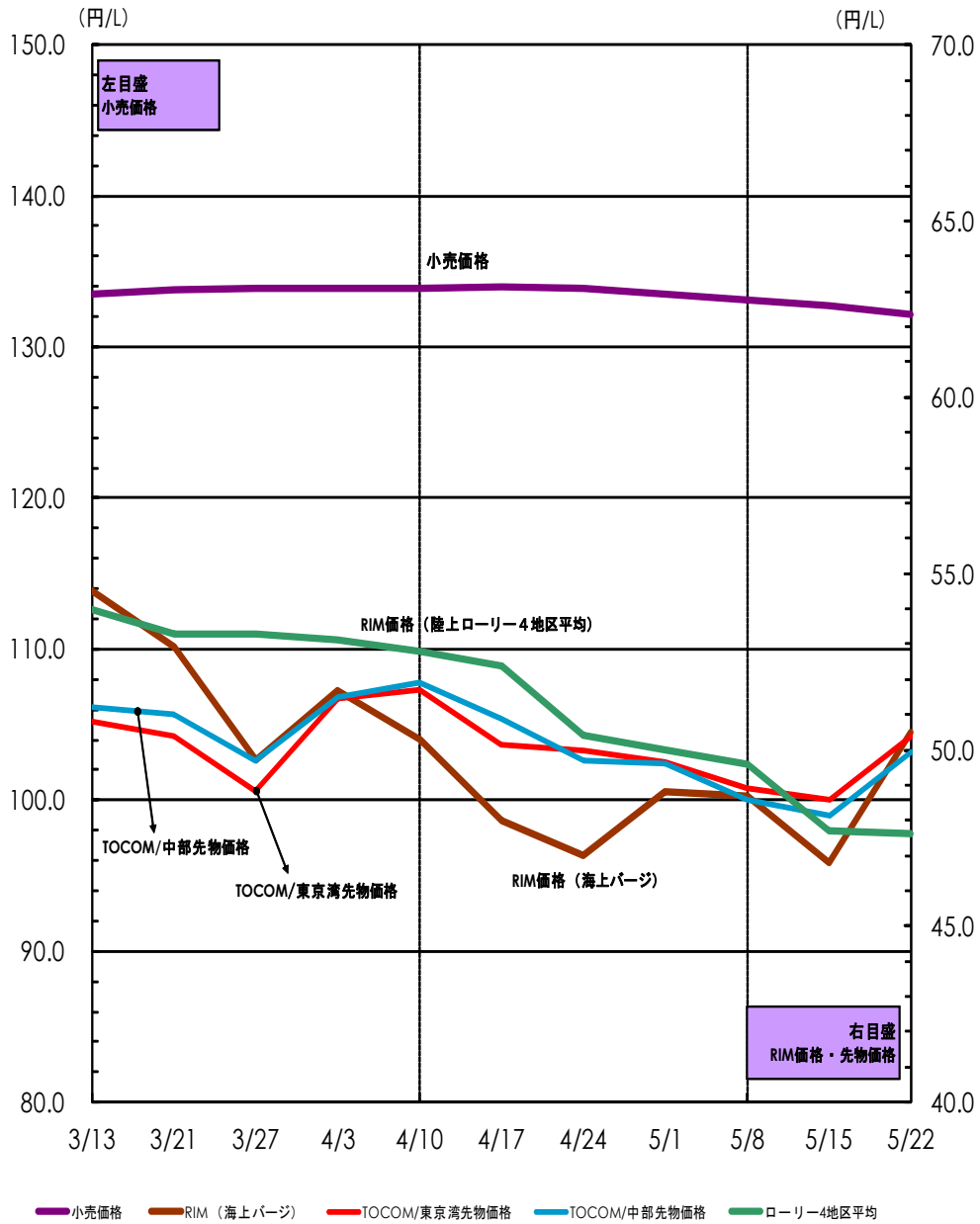
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/3/13 ~ 2017/5/22)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第8号)の公表は、6/2(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。